

JFS-B 規格でより高いレベルの食品衛生を

JFS-B 規格適合証明取得
安田蒲鉾株式会社様（魚肉練り製品の製造販売）

福井県福井市に本社を構える安田蒲鉾株式会社様は、1807（文化4）年の創業以来、蒲鉾、ちくわ、揚げ物（さつま揚げ）といった魚肉練り製品を製造販売しておられます。家内の手仕事としての創業でしたが、現在では衛生管理を徹底した自社工場で製品を作っています。企業としての規模が変わっても「自然の恩恵に感謝する気持ち」を忘れず、素材や製法にこだわった蒲鉾づくりを続けています。エンドユーザーに新鮮な製品を提供するため、厳選されたスケトウダラ、ミナミダラ、グチなどの白身魚を仕入れ、早朝から製品づくりを行い、その日のうちに出荷しています。福井県内のスーパーへの卸が中心ですが、オンラインショップにも注力しています。高品質な製品は多くのエンドユーザーから支持されており、令和4年に開催された第73回全国蒲鉾品評会では「農林水産大臣賞」を受賞しました。地元の老舗企業ということで、福井市内の小学生が工場見学に訪れることも多く、地域の皆様から愛される企業となっています。本社工場に隣接する「安田かまぼこ道場」では、一般の方が蒲鉾づくりを体験できるサービスを提供しています。2024年2月に、本社工場で製造する蒲鉾、ちくわ、揚げ物を対象にJFS-B規格を取得されました。今回は、JFS-B規格の取得にむけた動きを現場で主導された岡崎恭代様に、取得の目的や今後の活用ビジョンなどについてお話をうかがってきました。



岡崎恭代氏

—JFS-B 規格を取得された目的についてお聞かせください。

岡崎：最大の目的は、食品安全管理の水準を向上させることですね。当社は魚肉練り製品を製造していますから、以前から食品衛生については厳重にチェックしてきました。しかし、メーカーに求められる食品衛生のレベルが以前に比べて大幅に高くなったと感じていました。これまでのやり方で大きな問題が起きたことはありませんが、今後も同じやり方が通用するという保証はありません。社会全体が食品衛生に対して厳しくなっている状況に対応すべく、JFS-B 規格の取得にむけた動きを進めることになりました。また、福井県の HACCP が廃止されることになり、新しい認証（適合証明）を取得する必要性があったというのも大きいですね。

—JFS-B 規格のどのような部分にメリットを感じたのですか。

岡崎：日本生まれの認証（適合証明）なので分かりやすく、使い勝手も良いという評判を聞いていたので、その点は大きな魅力でした。これまでは福井県の HACCP を使っていたのですが、JFS-B 規格は日本全国共通なので、県外のお客様からのご理解も得やすいのではないかと考えました。今は福井県内のスーパーへの卸が中心ですが、今後は県外のクライアントとも取引を拡大していきたいと考えているので、JFS-B 規格を取得するメリットは大きいと考えました。

—JFS-B 規格を取得することに対する現場の社員の方の反応はいかがでしたか。

岡崎：工場では魚肉練り製品の製造に携わっている社員は、食品安全と品質管理に対する意識も高く、自分の仕事に誇りを持って働いて

て来ています。しかし、なにかしらの認証（適合証明）を取得するという事に慣れていないので、戸惑ってしまう社員もいました。しかし、現場の社員の協力がなければ、取得にむけた取り組みを進めることは不可能です。工場内に JFS-B 規格について分かりやすく解説するポスターを貼り、取得する意義やメリットについても丁寧に説明しました。工場には、フィリピンから来ている研修生もいるので、彼らにも理解してもらおうと、タガログ語のポスターを作成したり、理解を深めるための講習会を開催しました。そのような働きかけが功を奏し、現場の社員や研修生も JFS-B 規格の取得について前向きに考えてくれるようになりましたね。管理職がしっかりとコミュニケーションをとれば、現場の社員の理解を得るのは決して難しくないと考えています。

—JFS-B 規格を取得するための取り組みの中で、ポイントになったのはどの部分ですか。

岡崎：工場の改修工事は、会社にとって非常に重要なポイントでした。それなりに費用もかかりますから、簡単には決断できなかったですね。しかし、以前から工場が老朽化しつつあるという認識はあったので、JFS-B 規格の取得に合わせてしっかりと改修しようということになりました。この決断は正解だったと考えています。工場の改修工事を目にした現場の社員に会社の本気度が伝わり、改修工事を機に、取得を前向きに捉えてくれる社員が増えました。JFS-B 規格の内容を工事に反映させることもできたので、改修工事と認証（適合証明）を別々に行うよりも効率的だったと考えています。

—取得した JFS-B 規格をどのように活用していこうとお考えですか。

岡崎：エンドユーザーからの信頼を獲得するためのツールとして期待しています。社会全体で食品衛生に対する意識が高まっており、より高いレベルで安心・安全を求められるお客様はどんどん多くなっています。「この蒲鉾はどのように作っているのですか？」といったお問い合わせをお客様からいただくことも少なくありません。JFS-B 規格は、お客様に当社の食品安全管理の水準の高さを認知していただくために、非常に有効だと考えています。また、エンドユーザーだけではなく、法人のお客様からの信頼を獲得するためのツールにもなるはずで、新規のお客様と取引を開始する場合、食品衛生について詳細に確認される場合が多く、それが現場の負担にもなっていました。JFS-B 規格を取得したことで、新規のお客様との取引もスムーズに開始できるのではないかと期待しています。

—今後は海外への輸出なども視野に入れているのでしょうか。

岡崎：現在、海外への輸出はほとんど行っていませんが、過去に当社の製品を海外でテスト販売したことがあります。あくまでもテスト販売だったのですが反応も良く、将来的には海外への輸出に本腰を入れて取り組んでいきたいと考えています。当社の既存製品を輸出するだけではなく、現地の法令や食品衛生基準などを参考にしながら、輸出用の新製品を開発することも検討しています。輸出事業をスタートするために、JFS-B 規格だけではなく、もう一段階上の JFS-C 規格などの取得も考えていますよ。

—JFS 規格に対して今後期待していることをお聞かせください。

岡崎：もっと積極的にプロモーションを行い、知名度を上げて欲しいですね。福井県内の食品メーカーで JFS 規格を取得した企業もだんだんと増えてきましたが、決して多いとは言えません。エンドユーザーの方にもあまり認知されていないと感じます。内容もしっかりしていますし、ガイドラインも分かりやすいのに、非常にもったいないですよ。食品衛生のレベルの高さを証明する認証（適合証明）として、もっと多くの人に知られて欲しいです。

—JFS-B 規格の取得を検討している企業様にメッセージをお願いします。

岡崎：JFS-B 規格は、食品衛生の水準の高さを証明してくれる貴重なツールです。食品に対する安全・安心の意識が高まっている現代の日本において、取得する意義は非常に大きいと言えます。取得に至るまでの過程で社員教育などを行いますから、食品衛生に対する社員の意識が向上することにもつながります。日本生まれの認証（適合証明）ということで内容も分かりやすいですし、ぜひ前向きに取得を検討してみてください。

—本日はありがとうございました。



Company Profile

社名 安田蒲鉾株式会社
 代表 安田誠太郎
 住所 本社工場
 〒910-0837
 福井県福井市高柳 1-2512
 創業 1807年
 URL <https://yasuda-kamaboko.com/>